

【永井議員：一般質問】

「海のない昭和町で陸上養殖による漁業を」について

山梨県は、海なし県であり、ましてや昭和町も同様であります。その海なし県民は、昔からマグロの消費量がとても多く、県内のどこの食堂に行っても、マグロの刺身ができる。全国でも上位にランクインしていて、近年の調査では、全国2位という結果も出ているほどである。

海のない昭和町でも漁業ができる。こんな、“夢のような”海水を使わない陸上養殖によるシステムがあります。

それが、「好適環境水」といい、水道水や地下水などの淡水1リットル当たり約10グラムの粉末を溶かすことで完成。

(岡山理科大学准教授の山本俊政氏が2006年に開発。試行錯誤の2年を経て、魚にとって好適な環境となる水の組成(含まれる成分の比率)と濃度にたどり着いた。海水には約60の成分が溶け込んでいるが、海水魚に必要なのはナトリウムやカリウム、カルシウムなど数種類だけ。必要な塩分濃度も0.5~1%程度でいい。実は3.5%という海水の塩分濃度も海水魚にはストレスになっている。過剰な塩分を対外へ排出しなければならないからだ。好適環境水ならその分のエネルギーを成長に回せ、海水での養殖に比べ成長が早い。さらに安全性や味にも優れ、「いいことづくめだ」と山本氏は胸を張る)(令和7年2月14付け、公明新聞による)

その開発により、現在、陸上養殖に成功した魚類や甲殻類には、トラフグ、ヒラメ、クエ、クロマグロ、シマアジ、ウナギ、クルマエビ、ブラックタイガー等あります。

海のない昭和町で陸上養殖による漁業が出来たならば、昭和町産のブランド魚類が生産できる。こんなすばらしいことはないと思います。

このよう中で、好適環境水を使った養殖の最大のメリットは、海水を必要としないことであり、魚にかかるストレスが少なく狭いスペースや過密状態での飼育が可能で、屋内水槽さえあれば、立地場所を選ばずに陸上養殖ができるシステムの導入企業の誘致を調査・検討してはいかがでしょうか。

町長の見解をお聞かせください。

【答弁】

永井議員のおっしゃる「好適環境水」を用いた陸上養殖ですが、農林水産省の

つのちょう

資料では、宮崎県都農町、岡山理科大学、NTT 東日本、NTT 西日本の4者連携による養殖実験が行われているようです。山梨県内におきましては、淡水魚の養殖が盛んに行われており、2017年からは山梨オリジナル「富士の介」の養殖が始まりました。国も水産物の養殖を成長産業として位置づけ、陸上養殖の推進に力を入れております。

今後につきましては、他地域での事例や技術の進展を注視しつつ、相談等あれば対応してまいりたいと考えております。